

令和3年度 研究概要

研究推進担当者会議

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>高校教育研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>高等学校における思考力、判断力、表現力等を育成する授業づくりと指導に生かす評価 ～ サポートカードを活用した実践をとおして ～</p>
<p>育成を目指す 資質・能力</p>	<p>新たな課題に立ち向かい次の学びに生かす力を持ち続ける資質・能力</p>
<p>研究内容</p>	<p>令和4年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領では、学習の過程や成果を評価して資質・能力の育成に生かすことの必要性が示された。特に大きな変革期を迎えている高校教育において、各教科・科目の目標や内容に示された思考力、判断力、表現力等の育成が求められている。一方で、教科・科目における資質・能力の捉え方が様々で目標に準拠した評価が十分に指導改善に結びついていない現状があり、各研究員からは「新たな課題に対して自ら立ち向かい、学習を継続していく力」や「自分の考えを相手にわかりやすく伝える工夫」に関する課題が挙げられた。</p> <p>これらの課題を改善するためには、育成すべき資質・能力を明確にし、それが身についているかを適切に捉える評価方法を工夫して指導に生かすことが必要である。このことを踏まえて、生徒が諦めずに粘り強く課題に対峙し、授業において自分の考えを相手にわかりやすく伝える力こそ、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の資質・能力が表出した力であると考えた。</p> <p>そこで、本研究会議では生徒の思考力、判断力、表現力等を高める上で、比較や関連付けなど考えるための技法を内容とする「サポートカード」を学習活動で活用することが有効な手立てとなるのか研究していく。さらに、教師が科目の内容を指導する中で、指導に生かす評価を工夫し資質・能力を育成するという視点をもつことにつながるかを複数の教科・科目で検証する。教師は思考の手掛かりを示し、生徒自身が状況に応じて試行錯誤しながらも複数の視点から幅広く思考して判断し、新たな課題解決に活かすようになることを目指したい。同時に、この課題解決を捉えた思考の過程を評価の視点として活用し、自らの学びを振り返る中で、新たな課題に立ち向かい、次の学びに生かすために学習評価の充実を図ることを両輪として研究していく。</p>